

「校長室の窓から」

<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/nishiwakikita-hs/>

令和8年(2026)6月17日(水)

第16号 発行：隈元 優一

☎0795-22-5850/FAX: 0795-22-7359

「子どもたちの幸せ」のセーフティネットとして～これからの学校・家庭連携～

去る6月16日(火)、「令和8年度 兵庫県公立高等学校 PTA 連合会 定期総会」が開催されました。少子化の急進や PTA の任意加入を巡る課題など、現代の学校を取り巻く環境の変化が色濃く反映された総会となりました。



▲ 定期総会の様子 (兵庫県中央労働センター)

■ 「大人の背中」を見せる教育の場として

前県 PTA 連合会長の退任挨拶の中で、保育現場での経験を踏まえた非常に本質的な言葉がありました。

「周囲で困っている人がいれば手を差し伸べられる人間に育てるためには、まず私たち大人が、課題に対して前向きに行動する姿を背中で見せていくことが大切である」

PTA 活動は単なる学校行事の「お手伝い要員」や「集金組織」ではありません。何か課題が起きたときに、学校・家庭・地域がフラットに手をとり合って生徒を守る

「セーフティネット」であり、広義の教育コミュニティです。私たち教職員もまた、保護者を「支援者」としてだけでなく、共に生徒を育てる「パートナー」として捉え直す視点が求められています。

■ 連合会会費の改定と今後の見通し

なお、今回の総会では、近年の「加盟生徒数の激減(過去13年で約3万2千人減)」および今後の近畿大会等の運営財源確保のため、連合会会費を生徒1人あたり年間85円から135円(50円の値上げ)に改定する議案が承認されました。

会場からは「活動をスリム化している中で一律の値上げには反発もある」「大会等のあり方そのものを見直すべきではないか」という極めて実利的な指摘も出され、活発な議論が交わされました。結果として改定案は可決されましたが、今後の PTA 組織は「従来のやり方を踏襲する」ことから脱却し、より持続可能で精選された運営(電子メールでの配信や業務改善)へと舵を切る局面にきています。

本校におきましても、保護者の負担軽減を考慮しつつ、「義務」ではなく「有意義な協働」となるよう、学校側からも新しい PTA のあり方を提案・サポートしていく必要があります。教職員の皆様におかれましても、この背景をご理解いただき、日頃の保護者対応や学校の教育活動へのご協力をよろしくお願いいたします。